

第3回 BC ネットワーク医療関係者へのインタビュー

常盤真琴産婦人科医師に聞く（2018年3月吉日）

インタビュアー：山本眞基子（BC ネットワーク代表）

常盤先生、産婦人科医というと、主にお産に関係することをお手伝いする医師のように思われている部分が多いと思います。米国では産婦人科医師が、婦人科系疾患、がんの検診も含め検診をしている状況があります。

質問1) 産婦人科医として、こういった婦人科系の疾患を診療できるのか、皆様にお聞かせください。

常盤先生答え1)

婦人科はプライマリーケアの一部なのでどんな相談にものります。アメリカでは年に一回婦人科検診を受けるのが一般的です。その中では問診、身体診察（乳房、骨盤診察を含む）をしてから必要に応じて採血や画像検査を追加します。

質問2) 次は、どの婦人科系のがんの早期発見の検診を婦人科医がしてもらえるのか教えて下さい。

常盤先生答え2)

がんによってスクリーニング検査ができるものとできないものがあります。スクリーニング検査とはがんによる症状が出る前にがんを診断するための検査です。婦人科の診察では特に乳がんと子宮頸がんのスクリーニングを必ずします。症状があれば、卵巣がんや子宮体がんの検査（超音波、組織診）をします。

質問3) 日本人女性たちは、体の痛みが進み、堪えられなくなるまで医師への訪問をしない傾向があると私は考えています。前の質問で指摘された婦人科系がんの中で、それぞれこういった症状があれば、直ちに医師にアポを取るべきなのか、教えて下さい。

常盤先生答え3)

乳がん：しこり、皮膚の変化、

卵巣癌：特徴的な症状がないのが特徴、腹痛、膨満感、体重減少

子宮体がん：閉経後の生理のような出血

子宮頸癌：不正出血、性交後の出血、骨盤痛

質問4) 婦人科系検診のまとめを一般の女性たちに簡単にまとめて頂けますか。

常盤先生答え4)

日本では出産年齢が終わると産婦人科に行く必要はないと考えられがちですが、女性は年齢や状況に応じて身体が変わるのでとくに相談や困っていることがなくても定期的に

検診することが大切です。生理が始まってから、妊娠前、出産、出産後、閉経前後、また子宮や卵巣を摘出したあとでも、普段から検診を行うことによって、癌だけでなく卵巣嚢腫や子宮筋腫などの良性疾患を早期に発見し、早期に対処することができます。

質問5) 最後に常盤先生には、今後、診療をしていくにあたり、特に重点をおいて診察していきたい指針があれば教えてください。

常盤先生答え5)

日本でも医師をしていた経験があるので、日本とアメリカの医療の違いなどをわかりやすく説明しながら、アメリカにすむ日本人の方に安心して医療を受けていただけるように心がけていきたいと思います。

山本：常盤先生、これからもニューヨーク近辺の日本人女性への婦人科系の全ての疾患やがんの検診前進のため、患者さんと向き合って行ってください。

常盤先生の予約は以下です。

Makoto Tokiwa, MD

885-756-2496 まで (どのクリニックの予約もこちらに)

オフィス所在地：

Columbia University Medical Center
161 Ft. Washington Avenue, New York, NY

Columbia Doctors at Columbia Circle (コロンバスサークル)
1790 Broadway, New York, NY 10019

Columbia Doctors Rockland (ロックランド)
516 Route 303, Orangeburg, NY 10962